



3・11以降10年が経過した。原子力緊急事態宣言はもちろん解除されていない。3月7日肌寒いびわ湖畔に原子力発電は許さないと500名の市民が集まった。

## 原発問題の解決はできない

### 3・6原発のない社会へ 2021びわこ集会

や、福田章典医師による「安定ヨウ素材の使用説明会」、福島から避難された青田恵子さんによる布絵展示会が開かれた。

午後は、場所を変え屋外の膳所城址公園でせやろがいおじさんのトークショーが始まった。あつというまの1時間で、特にオリンピック組織委・森

元会長の発言など人権に鋭く切り込んだ熱弁だった。続く決起集会の開催。嘉田由紀子参議と米原市長の来賓挨拶を受け井戸謙一弁護士基調報告。トリチウ

# 老朽原発 うごかすな！ ニュース

## 第38号

発行・老朽原発うごかすな！  
実行委員会

【連絡先】  
090-1965-7102

ム水の海洋投棄 フレコンバッグ等の汚染土の自治体での使用などの更なる被害の拡大の流れ。一方裁判所の流れも、昨年の12・4大阪地裁判決は、閑職的裁判官から現職エリート裁判官の判決ということとで、反原発のうねりが大きくなってきたことを物語ってきている。関電不正マネー問題も原発がこのような不正利権構造を持つものであることが益々明らかになってきた。

また、原発賠償関西訴訟原告団の佐藤勝十志さんは、「トリチウムなどの海洋放出は国際条約で禁じられている」と報告。ますます、福島状況を広げていくと報告された。最後に関電滋賀支社ビル前を通過するデモ行進が行われ、道行く人の注目を集めた。（さいなら原発・びわこネットワーク 井沢 清）

## 誰もがいつ、原発事故被害者になるかも「知らない」

### 3・7 福島原発事故から10年のつどい

3月7日私たち脱原発はりまアクションは、「福島原発事故から10年のつどい」を加古川にて開催しました。私たちは、毎年3月11日前後に「福島原発事故から10年のつどい」として開催しています。

久しぶりの集会で、参加者数も全くわからない状況でしたが、ふたを開けてみると、会場への参加者が87名、初めて取り組んだオンライン参加者が18名と合計105名もの参加者を得ることが出来ました。

今回の講演は、福島県浪江町から兵庫県三木市に避難されている菅野（かんの）みずえさんでした。菅野さんからは、「もう10年 まだ10年」と題してはなしてもらいました。「自分の家が獣に荒らされていること、更に泥棒までもが自宅を好き放題にしている現状を考えられますか？」



「故郷を返して欲しいという言葉があるが、故郷を返してではなく『私たちが住んでいた家を帰して欲しい』と言うことです」といわれました。そして、彼女がいつも言われる言葉が「今参加されている皆さんが、明日にでも私のような原発事故被害者になるかわからない」と言うことでした。そして、「原発賛成者に私の現実を受け止められま

すか?と聞きたい」とも話されました。

もう1つの報告は、「『子ども脱被ばく裁判』が問いかけるもの」と題しての報告でした。この裁判は、子どもが原告になって「安全な環境下で教育を受けさせよ!」等を求め、国・東電を2015年夏に訴え、以来6年半余り闘ってきたものです。この裁判を支える会・西日本事務局を脱原発はりまの後藤由美子さんが担い、裁判のたびに福島へ

の傍聴行動や会員の拡大で支えて来ました。裁判支援署名も8万6千余名にものぼり「勝利判決」を期待したのですが、血も涙もない「不当判決」そのものでした。裁判長も気おくれたのか「判決主文」のみを読むと1分前後で出てしまったとのこと。裁判は、控訴が決まりました。更なる支援で不当判決を覆さなければなりません。

(脱原発はりまアクション  
菅野逸雄)

## バイバイ原発3・6きょうとに850名が参加

参加されていた福島からの避難者・菅野みずえさんから「本ができました」と原稿が寄せられました。

いつもお世話になっております。機会をいただき、福島現状をと思いましたが長くなりますので、グリーンアクションから発行された、アイリーン・美緒子・スミスさんのインタビューの本の紹介をさせていただきます。

2016年にインタビューを受けて、事故後10年経つ

今、アジェンダのFさんが一手に音声文字化してくださる、ようやく本になりました。この本を売り切って、資金とし、それだけでは足りないので、カンパの訴えもしながら抜粋版を作り、福井の原発立地やその周辺に全戸配布したいという、壮大な目標を立てたのです。それで福井の方々

## 高浜原発3号機再稼働に

### 街宣車・ヒトリデモで緊急抗議行動

3月7日(日)、関電が高浜3号機のテロ対策工事を終了し再稼働するので、急ぎよ8名が高浜に向かった。

高浜原発北門では朝6時半からIさんが抗議行動をされていた。街宣車は大音響で「蒸気発生器伝熱管事故の原因は究明されていない!」「政府・関電・福井県知事は原発をうごかすために、使用済み核燃料の保管候補地を2度も反故にし、更に3年延長は許さないぞ!」「関電は、私たちが支払った

電気代を、美浜町長に競争入札せず工事費に垂れ流す確約をした。

原発マネーの還流体質

は変わっていないぞ!」と訴えた。北門と正門前では、警察が2人見守る?なか、「反原発」「老朽原発うごかすな」の旗や幟を持ち、間隔をとりながらゲート前を回るヒトリデモを行い、

「関電は高浜3号機をうごかすな!」「関電は原発を安全にうごかす資格を持っていない!」とそれぞれが訴えた。

その後、舞鶴市に移動し「3・20高浜全国集会」「危険すぎる老朽原発」のチラシを各戸配布。さらに舞鶴で開

催された「さよなら原発舞鶴集会」に連帯するため、スタンディングアピールに参加した。

デモ申請が出来ない中での緊急行動だったが、創意工夫をしながら再稼働反対抗議行動を貫徹した。

(K・K)



闘った武者たち (3月7日)

にもご意見を伺い、活動家の本と見向きもされないのを避けるために、普通の何処にでもある住人を伝えるために、職業をとのことでもとても長い題名になりました。「福祉の仕事で35年働き東電の原発事故で人生が変わってしまった菅野みずえさんのお話」です。アジェンダがグリーンアクションで申し込み受け付けています。

原発賛成の方々に、こんなことになる覚悟はありますかと伝えたいのです。他人ごとでない未来が待ってはいませんか、今ならまだ間に合いますよと伝えなければと。

木原壮林さんと一緒に6人で申し立てたコロナ禍での原発の運転はやめよ仮処分決定書交付が17日午後からと決まりました。どんな決定が出るやら。却下で終わらないか、不安になりますが、どんな決定があろうとも、今から、ここからと頑張るしかありませんね。

(コロナ禍での運転差し止め仮処分債務者

菅野みずえ)